HOSEI University
よき師　よき友
つどひ結べり
（Vol.16　通巻21号）

経営学部 同窓会通信

発行・法政大学経営学部同窓会
発行人　岩井　昭（会長）
編集人　中西文行（広報）
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
ボアソナード・タワー 17階経営学部資料室
http://www.houseikeieidousoukai.com/

2018年 経営学部同窓会 総会・演芸会・懇親会 報告

2018年定期総会・演芸会・懇親会が、去る6月23日（土）14時より市ケ谷キャンパスで開催されました。

本年度は昨年までと比較して変更点となったものがいくつかありました。

定期総会　会場　富士見ゲート2階G201教室

従来は、戦後法政大学の顔ともいうべきモダニズム建築の最高峰55／58年館で開催しておりましたが、本年度は2016年9月竣工の富士見ゲートで開催致しました。外濠に向かった大きな開口部が特徴的な富士見ゲートは市ケ谷キャンパスの新しい顔といわれております。現役時代55／58年館で4年間学んだ参加者OB一同は、その卓越した教育環境に皆、驚愕の声をあげていました。

定刻14時に合間副会長の司会により開会が宣言され、議事進行前に総会出席者全員（25名）による、物故会員への黙祷が捧げられました。つづいて、岩井会長より挨拶をいただきました。

その後、同窓会総会の来賓の紹介、代表して校友会 小林副会長にご挨拶を頂き、議長に岩井会長を選任し、議事進行に移りました。

第1号議案　2017年度事業報告及び会計決算承認の件

2017年度事業報告について三海副会長、2017年度決算及び剰余金の処理について倉林副会長より報告がなされました。つづいて、飯塚監事より、今期の当該法人の業務の執行及び財産の状況について、適正である旨の監査報告がなされ、その後、採決を行い賛成多数の拍手にて承認されました。

第2号議案　2018年度事業計画案及び会計予算案承認の件

2018年度事業計画について三海副会長、2018年度会計予算書（案）について倉林副会長より報告がなされ、その後採決を行い、賛成多数の拍手にて承認されました。

第3号議案　役員選任承認の件

2018年度から任期1年の役員構成（案）について合間副会長より提案があり、その後、採決を行い、賛成多数の拍手にて承認されました。

14時45分に全ての議事が決議され、岩井議長の閉会宣言をもって、総会は無事終了しました。

演芸会　会場　ボアソナードタワー25階　スタッフクラブ

従来は、定期総会とセットで経営学部教授陣による講演会を行って参りました。これは、岩井会長の提唱される同窓会運営方針「学・遊」のうちの〝学〟に重きを置いたものです。これに対して本年度は、視点の切り替え（＝経営戦略論でいうところの「パラダイムシフト」）を行い、もう一つの運営方針〝遊〟にフォーカスして、現役学生による演芸会（落語・奇術）の鑑賞という初の試みを行いました。昨年12月にプロトタイプで行った落語研究会による学生落語がOB諸氏に大好評を博した事も、今回の演芸会開催に背中押しをしました。

15時よりボアソナードタワー25階スタッフルームへと場所を移し、合間副会長の進行により演芸会が実施されました。出演は、落語研究会より2名［富士見亭ぴー助（人間環境学部人間環境学科3年）・田町家ほ八（文学部日本文学科3年）］・奇術サークルより2名［田中千裕さん（文学部心理学科3年）・家田泰臣さん（経営学部市場経営学科3年）］総勢4名という豪華プログラムでした。

どの芸も素晴らしく、日頃の鍛錬の成果が発揮されてとても学生とは思えないパフォーマンスでした。トリを務めた奇術サークルの家田泰臣さんは、経営学部市場経営学科の現役3年生で我々の直の後輩ということもあり、演芸終了後〝将来は私も経営学部OBになりますので、その時は宜しくお願い致します。〟という微笑ましく且つ「ジジ殺し」のアドリブをかましてくれました。鑑賞していたOB諸氏は大爆笑となりました。岩井会長の提唱される〝学・遊〟の「遊」、「現役とOBOGとの交流」が成就した瞬間でした。

尚、経営学部同窓会は、他の学部同窓会に先駆けて、今回のような現役学生：文化系サークルの発表会活動支援の場を今後も継続して提供することを現在検討しております。その目的は、体育会と比較して日の当たらない文化系サークルにも成果発表の場を提供するとともに、今回のような交流を通して現役学生のうちに校友会＝同窓会活動の存在を知って貰うことにあります。

懇親会　会場　ボアソナードタワー25階　スタッフクラブ

引き続き16時より同場所で懇親会を行いました。演芸会に出演した現役学生2名、定期総会・演芸会と取材の為通しで参加した経営学部学生広報委員3年の林周平さんも参加し、山口副会長の進行の下、和やかな雰囲気で歓談が進みました。会の途中で今年度より経営学部長に就任された佐野哲教授よりご挨拶を頂きました。佐野新学部長よりは、経営学部の現状と今後の教学計画及び来年経営学部創設60周年に向けた戦略の概要のご説明をわかりやすくお話頂きました。最後にスクラム校歌で全員で声高らかに唱和し、17時30分に予定の全スケジュールを終了いたしました。

経営学部同窓会常任幹事会は、今後もFor the HOSEIの精神で、校友会学部同窓会活動のフロントランナーとして精進して参ります。卒業年次を問わず、OBOG諸氏の参加をお待ち申しております。

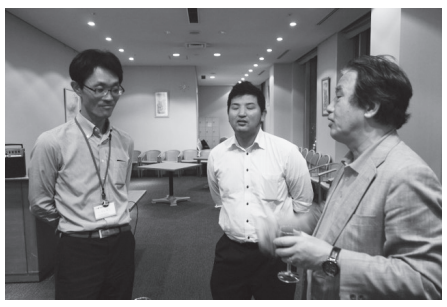
（副幹事長 藤野 晋）

開催日：2018年10月17日 同窓会・経営学部教員・本学経営学部卒業職員との懇談会

10月17日（水）18時30分より、市ケ谷キャンパスボアソナードタワー26階ラウンジにて、経営学部同窓会、経営学部教員、本学経営学部卒業の職員を対象とした懇談会を開催しました。

今回の目的は、本学経営学部卒業の職員の皆さんに同窓会の活動をより知っていただくこと、経営学部創立60年に向けて同窓会、教員、職員の連携を強化し、同窓会においても今後どのようなイベントをすればよいか意見をいただく機会にもなりました。当日は25名の皆さんに参加いただきました。

岩井会長の開会のあいさつ、経営学部同窓会から共栄大学にて客員教授をされている服部先生より乾杯の音頭をいただきました。その後、参加者全員よりご挨拶をいただきました。野球部長をされている神谷先生には、今年の六大学野球の優勝予想の話もいただき、大変盛り上がりました。同窓会、教員、職員の歓談の輪が広がり、有意義な時間を過ごすことができました。お忙しく途中で帰られた方もおりましたが、最後に集合写真を撮影し、20時過ぎに会を終了いたしました。



今後も同窓会は、教員の皆さん、職員の皆さんと良好な関係を維持し、連携を強めるため、会報、さまざまなご案内などを差し上げたいと考えています。

（事務局 杉山 孝）

【事務局便り】

平成30年秋の東京六大学野球は、法政大学が12季ぶりの優勝を果たし、平成最後の優勝校という記録を残しました。これで優勝回数は45回となり、早稲田大学と並んで再び同率一位となりました。

この12季ぶりというのは、昭和24年秋以降昭和35年春まで優勝がなかった20季ぶりという記録について、長い記録になります。

そのため、在学中に1回も優勝を経験できなかった学年が2学年も出ました。在学中に1回も優勝を経験できなかったのは、平成2年に入学したみなさん以来です。

私はその前年の平成元年入学ですので、一年生の春に一度だけ優勝を経験することができましたが、六大学野球の優勝に立ち会えるというのは、在学生としてはまた格別の経験だと思います。11月19日には優勝パレードと祝勝会が盛大に開催されました。パレードのコースも短く、昔のような振る舞い酒も行われませんでしたが、在学生のみなさんは勝利の歓びを楽しんだようです。

（事務局 柴岡 義則）

第23回 佐野哲ゼミの紹介

経営学科教授　佐野哲

佐野哲ゼミは、私が経営学科専門科目「経営社会学」を担当していることから、活動テーマに「経営社会政策の実践」を掲げるゼミとなっています。経営社会政策という概念はほとんど耳慣れないものだと思いますが、その意味と意義を簡単に説明すると「数ある社会問題に対し、企業の力を引き出しつ、それらの力をもって、その解決を図ろうとする試み」です。似た分野では、「企業の社会的責任」（その理論）、「社会責任会計」（財務情報上での可視化）などがあります。「経営社会政策」はそれらからさらに踏み込んだ、「社会にとって価値ある企業をどう探し、どう育てるか」というとてつもなく大きなテーマです。

実際のゼミ活動は、そうした「試み」を実践している投資ファンドとのコラボレーションを中心に据えています。本学市ケ谷キャンパスから徒歩15分程度、麹町に本社を構える「コモンズ投信株式会社」（渋澤健会長・伊井哲朗社長）は、意識の高い個人投資家を中心に運用資金を集め、社会的に価値ある企業を探し出して投資を行うファンドです。そして同時に、その信託報酬の一部を使って、NPOを含む若手の社会起業家を育てる事業を続けています。創業者で現会長の渋澤健さんは、あの「渋澤（栄一）家」の五代目で、米国の大学を卒業後に米ウォール街で働き、帰国後にこの会社を立ち上げた著名な方ですが、ちょうどそのころ知人の紹介を受けて知り合い、個人的に親交を深めてきました。現在の佐野哲ゼミの活動は、そうした私の人間関係の中から生まれたものです。

コラボ先が投信会社ですから、ゼミ生らは日常から、様々な投資・財務情報に振り回されることになります。彼らの多くが2年で入ゼミした直後の第一関門は、まずそれらを何とか理解できるようになるまでの専門知識を身につけることです。こうした座学は主に、大学の教室で行います。第二に、ゼミ生らは同社のリサーチ部門や運用部門の社員の方々と普段から非常に親しくさせて頂いており、近隣であることもあって、運用説明会や社会起業家を集めた会合など年度を通し様々な機会で「お手伝い」の声が係り、これが有効なインターンシップ経験となっています。そして第三に、ゼミ生らは自ら同社に口座を開設して、月三千円程度の小口で始める積立型の個人投資家となり、同社の皆さんの直接のアドバイスを受けながら「社会的に価値ある企業」を対象に、実際に投資を行うようになります。概ね3年の秋冬がこのレベルで、自身の就活においても、ゼミで覚えた企業情報の分析結果を使い、また各企業の社会的貢献活動にフォーカスを当てながら、面接で自らの意見を堂々と話せるようになっていきます。

ちょうどこの三月も、年度末の決算報告に係る大きなイベントがあり、ゼミ生全員アルバイトスタッフとして参加し、翌四月には、その社内打ち上げの飲み会に（私抜きで）参加しています（私は学部長関連の会議があり不参加）。

東京六大学野球応援観戦記

2018秋季リーグ戦法政大学のここまでの戦いの跡を振り返る。開幕第一週の対早稲田戦は、一勝一敗後の第三戦を宇草選手のホームランで勝ち点1をもぎ取った。第二週の対明治戦は初戦の引き分け後、良く立ち直り第二戦・第三戦の接戦を制し勝ち点1をいただいた。第四週の対慶應戦ではまたも第三戦までもつれ込み、しかも延長戦となる激戦のすえ敗れた。

1964年10月10日東京オリンピックの開会式の日もこうだったろうと思わせる快晴の秋空の下、今日の応援メンバー総勢9名は一塁側応援席脇に陣取る。

公認会計士法友会・社会学部同窓会の方々も今日は一緒に応援だ。

法政は後攻だ。一回の裏幸先よく先制点。今日はいけるぞと思った。そんな喜びも束の間、二回の表早くも立教に二点を取られ逆転を許す。しかしすかさずその裏同点に追いつく。やっぱり今日はいけるぞ！！とまた思う。五回表立教の猛攻に三点を献上。しかしその裏またもすかさず二点を取り追い上げる。そして六回裏犠牲フライで同点に追いつく。

私の気持ちも「いけるぞ」「だめかも」のあいだを行ったり来たり。試合も両校総力戦の様相か？七回、八回トントンと試合は進み早くも九回の攻防を残すのみ。今日はヤクルト阪神戦がこの後あるので延長戦は無しの最終回の攻防だ。応援団の応援も力が入る。応援団長もバケツの水を四杯も頭からかぶり気合を入れなおす。九回表立教に犠牲フライで一点をもぎ取られあとがなくなった。

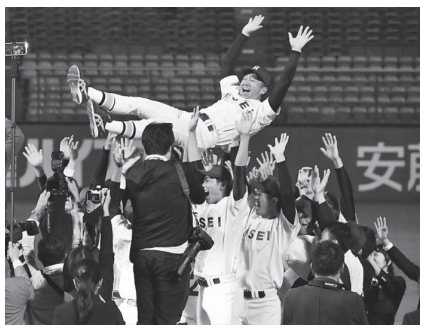
簡単にツーアウト「やられたか」と弱気の虫が腹の中？で泣き出す。しかし今季の法政は一味違うぞ。ここまで二安打の向山選手がタイムリーヒットで同点に追いついた！！これで我等法政の負けはなくなった。悪くても引き分けで明日にかければいいやと思いだしたその瞬間、目を疑うような光景が眼前に！！

相手ピッチャーが痛恨のボーク。ボークは各塁の走者は一つ進塁なので三塁ランナーが返ってきて決勝のホームを踏む。

感激のサヨナラ劇だ。試合後の懇親会は法学部同窓会、公認会計士法友会との合同懇親会で大盛り上がり。今期の優勝は慶應の対立教戦・対早稲田戦の成績次第となったが他力とはいえ優勝の望みをつないだ。第七週の対東大戦も気を緩めることなく戦い久しぶりの優勝をもぎ取ってもらおうじゃないか。

（副会長 三海 眞一）

2018 東京六大学野球 秋季リーグ戦45度目の優勝！



法政大学が東京六大学秋季リーグ戦を優勝（12季ぶり45回目）しました。

10月29日（月）、早稲田大学が慶応大学から勝ち点を奪ったことにより、法大、早大、慶大が勝ち点4で並ぶことになり、法大が勝率で上回ったため、優勝となりました。

このことにより法政大学が東京六大学リーグ戦の優勝回数（45回）で早大と並びトップとなります。

ベストナイン：中山翔太（人間環境4年）、相馬優人（経営3年）、向山基生（経営4年）、小林満平（法4年）

（法政大学HPより転載）

第50回全日本大学駅伝対校選手権 伊勢路に吹かせたオレンジ旋風！ 総合7位入賞で17年ぶりのシード権獲得を果たす!!

悔しさの残った出雲路から約一ヵ月。法大は再び6位という目標を掲げ、寒空の伊勢路へと飛び出した。法大三本柱の一角、青木がいきなり1区4位と流れを作ると、岡原が4区5位、坂東が6区6位など要所を締めシードへ向けた流れは渡さず。最後は駅伝主将の大畑が7位でフィニッシュを果たし、目標達成とまではいかなかったが価値あるシード権をもぎ取った。（スポーツ法政新聞HPより転載）